

ハナハマセンブリ (Centaurium tenuiflorum) 富山 県に帰化

著者	太田 道人, 大原 隆明, 武田 宏
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	20
ページ	105
発行年	1997-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=683

短 報

ハナハマセンブリ *Centaurium tenuiflorum*
富山県に帰化*

太田 道人
富山市科学文化センター
大原 隆明
富山県中央植物園
武田 宏
富山県立滑川高校

富山県滑川市加島町の県立滑川高校グラウンド隅に、ヨーロッパ原産の帰化植物 *Centaurium tenuiflorum* (Hoffman. & Link) Fritsch が生育しているので、富山県新帰化植物として報告する。

1995年7月、同地に本種が生育していることを、筆者の一人、武田が発見した。生育地の環境は、グラウンド隅に設置されたネットとグラウンド境界のコンクリート測溝壁との間の砂地で、巾0.8m、長さ30mの狭い範囲に100個体余りが生育している(図1)。開花個体に混じって、開花にいたらない小型の個体も多く見られる。

Centaurium tenuiflorum は、リンドウ科シマセンブリ属の高さ30cm前後になる1年草で、不明瞭なロゼットがあり(時にない)、茎の上部に2岐集散花序をつけ、枝は鋭角に斜上する。葉は対生し、長さ2.0~2.5(時に3.0)cm、幅0.5~1.0cm、卵状長だ円形で鋭頭。花は、苞葉の腋に1個ずつつき、長さ10~12mmで短い小花柄が



生態写真

ある。萼は、長さ5~6mm、花筒と同長かやや短い。花はピンク、花冠は5裂し、裂片は長さ3~4mm、幅1.2mm。さく果は萼とほぼ同長。神奈川県横浜市中区の埠頭で初めて採集された。(Melderis, 1972, Press et al, 1993, W. Keble Martin, 1982, 高橋, 1988)。

高橋(1988)は、本種を *C. pulchellum* (Sw.) Druce とした上で、正確な解説とともにハナハマセンブリと新称を与えている。しかし、高橋(1988)の解説文は、*C. pulchellum* ではなく *C. tenuiflorum* に一致するので、ハナハマセンブリの和名は後者の学名に当てるのが適切である。

標本は富山市科学文化センターに収蔵されている。

Centaurium tenuiflorum (Hoffman. & Link) Fritsch
(リンドウ科)

和名 ハナハマセンブリ

・富山県滑川市加島町滑川高校グラウンド

1996年7月7日

武田 宏採集

標本番号 TOYA Sp.53445

1996年7月15日

太田道人・武田 宏採集

標本番号 TOYA Sp.53446-53448

文 献

A. Melderis, 1972. *Centaurium*. Flora Europaea. volume3. pp. 58-59. Cambridge Vriuersity Press, London.

Bob Press, Barry Tebbs, Nick Torland, 1993. Wild Flowers of Britain and Europe. pp.194-195. New Holland Ltd., London.

W. Keble Martin, 1982. The New Concise British Flora. plate58.

高橋秀男, 1988. リンドウ科. 神奈川県植物誌. pp.1046-1047. 神奈川県立博物館.